

1 自己評価

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490300086		
法人名	株式会社リーフ		
事業所名	グループホーム 小祝	ユニット名 もみじ	
所在地	大分県中津市宇小祝525番地277		
自己評価作成日	平成25年1月19日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

周防灘が目の前にある自然にあふれた施設で、天気の良い日は絶えず海を眺めながらの散歩が楽しい、気分転換も図れる。又、桜並木があり、開花時期には花見も行え季節感も味わえる。近隣地区で散歩や花見を行うことにより、小祝漁協の漁師さんや近隣の方とも交流が持て施設に対しての理解も深まっているとおもわれる。施設内は自然光を取り入れる用、中央に中庭を造り、天気や時刻、生まれながら人が自然と身に付いた感覚を遮断しないよう心がけた造りにしている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/44/index.php
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバンマトリックス 大分事業所		
所在地	大分県中津市耶馬溪町大字大島2640		
訪問調査日	平成25年2月13日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関先やフロアにご家族が理解して頂けるように運営方針を掲示している。また、職員の意識づけの為、全体朝礼で運営方針の唱和を行うとともに、常時携帯している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	推進会議に参加されている地域代表から情報を頂き、その情報を基に地域行事に参加している。また、地域防災活動会議などに施設の代表が参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご利用者と共に、学校行事やお祭り等の地域行事に参加し、積極的に交流機会を作っている。また、運営推進会議を通じて、認知症ケア実践状況を発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域住民の方や利用者家族を招いて、二ヶ月に一度会議を開催し、施設の現状報告を基に意見交換を行いサービスの向上に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者と連絡を密にとり、当施設の実情を報告し、ご指導頂いている。また、推進会議に参加して頂いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	原則として身体拘束は行っていない。ただし、利用者の安全を守るため、ユニット入口の施錠を夜間に行っている。また業務については、身体拘束排除の規定を盛り込み、職員に周知している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	業務マニュアルに虐待防止についての資料を提示し、入社時に周知している。また、休憩室にポスターを貼り、虐待防止意識向上に努めている。		

大分県 グループホーム 小祝

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入所時のオリエンテーション時に、業務マニュアルに記載されている内容を周知している。また、専門の相談員や包括支援センターと必要時は連携し、支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご利用開始前に重要事項説明書、契約書等に沿ってご家族に丁寧に説明したうえで、不安なきようサービスについての疑問などにお答えした後、同意を得るように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が意見できる関係を築き、玄関先に意見箱を設置し、ご家族やご来園者がいつでも投稿できる環境に努めている。また、推進会議で直接ご意見、ご要望をいただく機会がある。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々のミーティングの中で、意見や要望を聞き取り、業務に取り入れている。ユニット会議や全体会議での意見交換を業務に反映できるよう努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	処遇改善の為、毎月評価表を作成し、給料に反映している。労働時間については、業務終了後は速やかに帰宅できるように促している。また余裕を持ったシフトで、職員が向上心をもってよりよい介護環境を創出できる雰囲気づくりをしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修情報を掲示し、自発的に参加できる環境を作っている。月に一回、施設内研修を行い、職員のスキルアップと共に利用者のサービスの質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の参加や認知症ネットワークの会に参加し、同業者と交流や情報交換を行い、サービスの向上に努めている。		

大分県 グループホーム 小祝

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用前の情報やご家族の話を基にニーズを把握し、寄り添い、安心できるよう援助している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の思いをくみ取れるように、何度も相談を行いながら、ご家族の要望を反映し、ご本人の安心がご家族の安心に繋がるよう、ケアに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回訪問の情報だけでなく、利用前の担当者からの情報をふまえ、事業所のサービス以外も含めて適切なサービスが提供できるよう見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一方的な介護ではなく、ご利用者の声や行動を尊重し寄り添い、ご利用者と共に日常活動を行えるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話連絡や面会時にご本人の状況を伝える事で、日々の情報の共有を行い、ご家族も支援できる関係づくりに努めている。また、施設行事の参加の呼びかけをし、ご家族との時間が持てるように工夫している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族から情報を頂いた本人の思い出の場所へのドライブや買い物に出かけている。また、馴染みの関係のある方の面会援助も行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テーブルの配置を、それぞれの個性を生かした配置にし、自然にコミュニケーションがとれるように工夫している。少数での活動や両ユニット合同のレクリエーションも出来るようにメリハリをつけている。		

大分県 グループホーム 小祝

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族の相談内容に応じて、必要な機関に連携を行い、契約終了後も必要に応じて情報提供やお見舞いをするなど努めている。長期入院後、再契約に繋がったケースもある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	事前情報はもちろん、日々の暮らしの中からも1人ひとりの希望や思いを汲み取れるよう意識し、カンファレンス等で情報交換している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用前の面談や現事業所からの情報の中から、生活歴に近づけるようなケアを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人ひとりの生活の質の向上と健康状態の維持に努めると同時に、残存機能を生活に活かすケアを考えている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族からの意見、要望、主治医から頂いた意見、日々のケア記録等を基に、ケアカンファレンスを開催し、ケアプランに反映している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランとケアの連動を重視し、毎日プランに沿ったケアの実行チェックを行えるように工夫しており、常にご本人に合わせたケアに繋がるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人らしく生活をしていけるよう、きめ細かな生活支援を目指しており、ユニットや各ご利用者において独自のサービスや個別対応をしている。		

大分県 グループホーム 小祝

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事や催し物の情報収集に努め、積極的に参加することで、馴染み感覚、季節感、お祭り気分等呼びさまし、日々の生活を豊かに感じて頂けるよう心がけている。また、行政が行っているサポート事業にも参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の希望している医療機関を利用していただけるように援助している。かかりつけ医には、日々の状態や変化の情報を適正に提供している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の体調管理を行い、体調不良時はすぐに看護師に報告。急変時は、看護師がオンコールにて駆けつけられる体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	看護・介護サマリーの情報提供を行っている。入院期間中は、面会しながら精神面の援助を行い、同時にご家族やソーシャルワーカーと連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	健康状態の急変時はかかりつけ医や協力病院との連携を図り、緊急診療をお願いしている。また、病状変化については、家族に病状や診療結果の説明をし、情報を共有している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故対策委員会を設置し、事故後すぐに対策を行い、再発防止に努めている。AEDや救命の講習等に職員が参加し、救急に対する意識の向上に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の防災訓練を利用者と一緒に行い、職員の防災への意識向上に努めている。緊急連絡網を都度見直し、緊急時に対応できるように周知している。		

大分県 グループホーム 小祝

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に会った生活や習慣を尊重したコミュニケーションや対応を行っている。また、身体援助については、プライバシーが保護できるような援助に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者の意思が日常会話や言動の中から、表出し自己決定に繋がるよう声かけや援助を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人ひとりのニーズに合わせ、プライベートな空間づくりや時間の過ごし方が出来るよう、日々支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の意思や希望を確認しながら、個々の表現やおしゃれが出来るよう支援している。清潔の保持にも努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けや下膳を利用者と一緒に行っている。在宅生活での嗜好調査を行い、季節に応じた調理方法や献立、個人に合わせたメニューを栄養士と相談しながら提供している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の健康チェック、個人の嗜好に合わせた飲料の種類や補食の種類を選択できるよう工夫している。摂取量にムラのある人は、看護師・栄養士に相談しながら食事の形態を変更したり、必要に応じてご家族の協力を得ている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア援助を行い、義歯適用者には専用洗浄剤を使用している。また、無料歯科検診を活用しながら、口腔環境維持の為、看護師が口腔ケア指導を行っている。		

大分県 グループホーム 小祝

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	残された機能を発揮できるよう努めている。また、1人1人の排泄パターンに合わせて、トイレでの排泄誘導と支援を行い、失禁の減少に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の水分量や活動量、食事量を観察し、適宜運動の働きかけをしている。便秘傾向の方は、腹部マッサージや体操を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週3回以上のスケジュールの中で、本人の気分や体調に合わせながら、日時の変更を行い、本人の思いや習慣に合わせて柔軟に対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	無理に起床時間や就寝時間を決めず、本人の習慣やペースに合わせて休息や睡眠をとって頂けるように心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師、主治医の連携のもと、こまめに状態報告を行い、内服処方を受けている。また、看護師の管理のもと、服薬援助をしており、副作用については申し送り簿に明記され周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や生活習慣の中から、ご本人の喜びや楽しみを見出せるように役割づくり、レクリエーション、家事活動、散歩等の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の体調に合わせ可能な限り戸外散歩や外出、地域行事に出かけるよう努めている。また、家族の協力のもと、外出援助を行っている。		

大分県 グループホーム 小祝

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の許可や了承を頂き、管理できる範囲の金額を所持している。ご本人の希望があれば、個別で対応し、購入できるように援助している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族やご友人からの電話や手紙の要望がある時は、ご家族の承諾のもと、取り次ぎをしている。ご希望がある方は、ご利用者が携帯電話を持たれ、自由に連絡をしてしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	キッチンオープンキッチンにし、利用者共同作業しやすい。また、リビングは圧迫感のないように天井を高くし、採光を取り入れやすいようにし、フローアを季節感に応じた装飾にしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	くつろぎの空間を設置し、ソファーやテーブルなどの居場所を本人の活動に応じて選べるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	新しいものではなく、使い慣れた家具や寝具の持ち込みをお願いしている。居室内の家具の配置等、本人、ご家族と相談しながら生活しやすい空間づくりに配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーに配慮し、手すりやベッドの介助バーやナースコールを設置し、1人ひとりの能力に合わせた活用が出来るようにしている。		